

みんなで始めよう、さあ！！里山再生を！

私たち「やまなしどんぐりバンク」ではどんぐりを拾って苗畑に植え苗を育て、里山に還すことを続けてきました。すでに多くの里山が元気に育ち、若い丈夫などんぐりの木（クヌギ・コナラ・ミズナラ・シラカシ）が育っています。

かつてはこの里山林が地元集落の生活に重要な資源として生活を支えてきましたが、現代では集落が里山を活用することはありません。にもかかわらず里山は様々な形で集落への効用をもたらしています。

私たちの里山再生活動は、従来の視点とは異なり、健康で快適かつ豊かな生活空間の一部として定着させるべく、人々の多様なニーズに対応できる混交林づくりを目指します。

今年度（後期）の活動予定



最新情報は
Facebookから！

10月14日・27日
どんぐり拾い
イベント

11月23日
里山再生イベント
(スキ・ササ刈り
堆肥づくり・竹炭づくり)

2025年1月
続・里山再生イベント
(枝打ち・たい肥づくり・新月伐採)

2025年3月
植樹祭・植林イベント
どんぐり播種イベント



講師の坂田先生（左）



大人も子どもも楽しめました！



真剣にお話を聞く参加者の皆様



たくさんの方にご参加いただきました！

やまなしどんぐりバンクからのお知らせ

本通信は「やまなしどんぐりバンク」にどんぐりを預託してくれた皆様、イベントに参加された方、里山再生に関心のある皆様にお届けしております。また北杜市内の図書館・観光案内所等に常時配備しております。皆様のご意見・ご感想・ご要望等が伺えれば幸いに存じます。

やまなしどんぐりバンク

代表：明石益夫 携帯▶090-5562-5345

Mail▶aka.satoyama@rainbow.plala.or.jp





どんぐり コラム

前回に引き続き、今回も環境再生士の黒岩先生に「里山再生」への想いと森づくりワークショップへのイメージを語っていただきました。

生物多様性を育む森作り

自然農園経営・環境再生士 黒岩 成雄

去る 8 月 16 日にどんぐりバンクのフィールドで、環境 NGO「虔十（けんじゅう）の会」代表でコモンフォレストジャパンの理事でもある坂田昌子さんの WS が行われました。坂田さんは、生物多様性を育む森作りの専門家です。具体的にどのようにフィールドに手をいれていけば良いのか？アドバイスをもらう為に森のガイドウォークをしていただきました。

今、どんぐりバンクが森作りをしている場所は、10 年程前は戦後に開墾された畑が放置されて、赤松と雑木の生い茂る森（8,000 平米）でした。その森を皆伐して太い材は持ち出して、残りの枝粗朶が林内に残されました。5 年程前にどんぐりバンクがその土地を借り受けてクヌギ、コナラ、ミズナラ等を植林しました。

ただ、植林の当時から笹や篠竹が増えていて、苗を植えるのが大変でした。そして植えた苗は、思ったより活着せずあまり育っていません。

沢の上流に向かって右の斜面には篠竹が蔓延（はびこ）っていて所々が崩落しています。それに対して左側の斜面は、いろいろな木々が生えていて苔がのって安定しているように見えます。

この違いは何なのか？

左側の斜面の上は、人工林ではありませんが間伐されていて光が程よく林内に差し込み、所々に落葉広葉樹も生えていて比較的安定した森になっています。それに対して、どんぐりバンクで植林したところは皆伐の後、一気に太陽の日差しにあてられて乾いた大地が崩れ易くなり、笹と篠竹が侵入してなんとか崩れるのを止めているという状況のようです。

一度笹や篠竹に覆われると、他の多様な植物が入る余地が失くなるそうです。また、周辺の木々も笹や篠竹に足元や周りを覆われることで根が水を吸い上げづらくなり弱っていきます。

そこで坂田さんのアドバイスは、笹や篠竹を根元の地際の成長点より下で切り、1 度リセットさせることでした。その場所で切るとしばらく笹や篠竹は生えてこないの、その間に他の植物が生えて根を下ろし、彼らに頑張ってもらおうというシナリオです。

WS では、篠竹を丁寧に 1 本ずつ刈り集めていきました。笹や篠竹は抗菌作用が強いのでその場に置かずに持ち出すのが良いそうです。また落ちている枯れた笹の葉も丁寧に拾い集めました。そうすることで他の木々や草が生えやすくなります。

篠竹に覆われた川の斜面には、良く見ると紅葉（もみじ）が力なく生えてい

ましたが、周りの篠竹を刈ってあげると少し元気になったように見えました。生い茂る笹や篠竹を刈っていく作業はとて地道ではありますが、刈ったあとの斜面は心地よく、このあとのような多種多様な植物がここに芽吹き育つか楽しみです。

今後も季節に応じて随時必要なお手入れ作業をしてゆきます。

少しずつ多様な生き物が育ち、人にとっても心地の良い森を創って行きたいと思しますので、ぜひご参加ください。

次回 11 月 23 日の WS では、刈り集めた篠竹の炭焼きと笹刈り、萱（かや）刈りをします。焼いた炭は、森の環境改善に使います。刈った萱は雨の当たらないところに保管してこのあと、小屋作りの時に屋根として利用します。笹や篠竹だけでなく萱も刈って持ち出すことで、春には沢山の他の植物が生えやすくなるそうです。春が楽しみです。

来年 1 月 26 日の WS では、近くの檜（ひのき）の人工林に入って新月伐採を行います。少しずつ間伐して、檜と落葉広葉樹の針広混交林を育てて行く取り組みです。

坂田さんのアドバイスでは、広葉樹を増やすためには広葉樹や赤松の近くから檜を間伐して広葉樹の苗を植えると同じ菌根菌を持つ木々同士なので、育ちやすくなるそうです。（苗は来春の WS で植える予定です。）

伐った檜はフィールドの休憩小屋の材料として使います。新月に伐った材は、他の時期に伐ったものより強く長持ちするといわれていますから、小屋にしてどれだけ長持ちするか楽しみです。



坂田さんに最初に見ていただいたのは、この土地の西側にある谷でした。（西側は谷になっていて、フィールドからは 8 メートル程落差があります。谷底は小さな沢が流れています。）谷筋を観察することで、その周辺の環境がどのような状態かわかるからです。